

平成26年度 事務事業評価シート

事務事業名		中学校楽器有効活用				所管	教育委員会 庶務課	
事務事業の概要	行政計画	なし	事業NO.		計画事業名		事業の開始・終了年度	
	長期総合計画体系	[基本目標]					[事業開始] 平成 2 2 年度	
		[小 柱]					[終了予定] - 年度	
		[施 策]						
	根拠法令等	その他		[法令等名]	なし			
	事業対象	区立中学校及び生徒						
	事業目的	器楽教育に使用する楽器の整備と有効活用を図り、生徒の情操教育効果を高める。						
	事業内容	各校ごとに不足する楽器の購入及び故障楽器の修理・清掃を教育委員会が一括管理し、必要な学校に貸し出す。						
	委託の有無	なし	委託内容					
補助金の有無	なし							
事務事業の実績	種 別	指標の名称 (単位)		目標値 (27年度)	23年度	24年度	25年度	
	活動指標	学校数 (校)	7	7	7	7		
		学級数 (学級)	71	70	71	70		
	成果指標	1校あたり経費 (千円)	373	368	370	368		
		1学級あたり経費 (千円)	37	37	37	37		
	決算額 (単位：千円)			2,576	2,592	2,578		
	事務事業コスト (単位：千円)	人にかかるコスト (人件費など)		990	1,000	943		
		物にかかるコスト (物件費・維持補修費)		2,577	2,592	2,578		
		その他のコスト (扶助費・補助費など)		0	0	0		
		総経費		3,567	3,592	3,521		
	財源項目 (単位：千円)	受益者負担額 (使用料・手数料・負担金など)		0	0	0		
		その他特定財源 (国や都の支出金・財産収入など)		0	0	0		
一般財源 (区負担額)		3,567	3,592	3,521				
前年度から改善した事項		器楽教育に使用する楽器の有効活用が図れるよう各校へ貸出する保管(共有)楽器を追加・補充した。						
評価の視点	評価	評価の理由						
	必要性	4	器楽教育を円滑に進めるための環境整備である。なお、各校が必要とする楽器の追加・補充が必要ある。					
	効率性	3	器楽教育に対する各校の指導環境は各年度の児童数等によって変わるため、楽器の種類及び数を調整する仕組みとして、器楽教育の環境整備に必要不可欠な事業である。					
	手段の適切性	3	義務教育(情操教育)の効果を高めるため、行政の関与は必要不可欠である。					
	目的達成度	4	児童の器楽教育を受ける機会均等と水準の維持向上が図られている。					
[評価の理由] (区民生活への影響を十分考慮すること)					評価結果	今後の方向性	拡大 改善 維持 縮小 廃止・終了	
健全な生徒の育成には、円滑で効果的な情操教育が不可欠であるとともに、それを可能にする教育環境の維持が必要であり、器楽教育を円滑に進めるための環境整備を図っている。						維持		